
背徳のキスに溺れる

maca

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

背徳のキスに溺れる

【コード】

N0960M

【作者名】

macca

【あらすじ】

「先生」

何度も彼は私を呼んで、
愛して欲しいと涙を零した。

「先生」

低くて穏やかな声が今日も私を呼ぶ。

けれど私はそれに応えることなく、夕暮れに染まる廊下を歩き続けた。

早く職員室に戻って帰らなくては。

「先生、待って」

コツコツと響く私の靴音に重なる彼の靴音が段々と近づいてくる。

そして角を曲がった瞬間、私の指を絡め取る彼の指先。

まるで恋人のように繋がれた手に視線をやって、それから彼の瞳を覗いた。

「帰りなさい、東堂くん」

色素の薄い彼の瞳が柔らかく細められて、口元は緩やかに弧を描いた。

どんなに冷たく言い放つても彼は私の声を聞くだけで満足だと言う。私の視界に入るだけで幸せだと言う。

厄介な相手に目をつけられたものだ、と吐き出しそうになる溜息を飲み込んだ。

東堂千影

我が校きつての天才児で、それ以上に変わり者として有名だった。教室で授業を受けた回数など入学して以来数えられるほど。

彼の居場所は人がいない空き教室や他の生徒の使用率の低い図書室とにかく人と行動することを嫌い、一人でいることを望んでいた。そんな彼なのに、何故か私にはひどく懐いていて、こうして放課後や人がいない時間を見計らっては私に近づいてくる。

彼の優秀すぎる成績は自由気ままな行動を教師達に黙認させるには十分なものだった。

だから、誰も私に纏わりついてくる東堂くんには注意したりしない。私自身もあまり刺激するなど他の先生方に言われているせいで、強く拒絶することが出来ずにいた。

だから だから、こんなことになってしまったのだ。

「先生、キスしたい」

私よりも綺麗なんじゃないかと思うさらさらな黒髪を揺らして、そつと東堂くんの顔が近づいてくる。

何度目かも分からないキスの甘い熱に逆らえず、私は目を閉じた。東堂くんの優しい指先が私の頬や髪を撫でて、ぎゅっと私を抱き寄せた。

まるで甘えてくるような彼の行動に絆されて、私も彼を抱き返してしまっ。

「先生、好きだよ…先生」

泣きそうちに、縋るように私を呼ぶ彼は泣いていた。

愛して欲しいと、私を求めて泣いていた。

「…ごめんね、東堂くん」

私は教師だから、あなたのものにはなれないわ

ぎゅうつと私を抱き締める腕の力が強くなって、東堂くんの唇から小さな嗚咽が洩れた。

ごめんね、

言葉にならない謝罪を心の中で何度も呟いて、彼の頬を伝う透明な涙を何度も拭った。

背徳のキスに溺れる

込み上げる愛おしさなんて知らない振り

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0960m/>

背徳のキスに溺れる

2010年10月16日14時53分発行